

# 湯浦地区地域優良賃貸住宅整備設計に係る公募型プロポーザル 全体についての提案

## まちの今と未来をつなぐ「開いた輪」

令和2年7月豪雨災害の経験を経て、芦北には山と海、川がとても身近にあることをあらためて感じました。自然とともに生きる日常が安全・安心のもとに成り立ち、人々が支え合い楽しく暮らす場づくり、また町の未来を担う子育て世代を中心に、すべての人がその人らしく生き生き暮らせる場づくりのために、以下5つのテーマを掲げます。

### ■ 5つのテーマ

**繋ぐ**：人と人、現在と未来をつなぐ場にします。

**集まる**：賑わいと交流が生まれる場をつくります。

**備える**：安全に避難でき災害を最小限に留める計画とします。

**シンボルとなる**：周りをとりまく環境を活かし新しい町の顔となる場をつくります。

**創造する**：小さくてもオンリーワンを謳う芦北町ならではの団地を目指します。

### ■ 風景に繋がる

敷地は、両側を山並に囲まれた湯浦川のほとりに位置しており、その地勢に呼応するように交流広場を中心に据えたゾーニングとします。広場では常に前後の山々と湯浦川を臨めます。



### ■ 安心感と一体感

住戸は、気兼ねなく生活しやすい一戸建て感覚の長屋とします。ボリュームは周辺になじむ大きさに分節し、屋根は安心感を与える切妻とします。すべての玄関が広場側に位置し、住戸内に避難場所を設けることで日常生活のなかで防災の感覚を持つことが出来、安心できます。



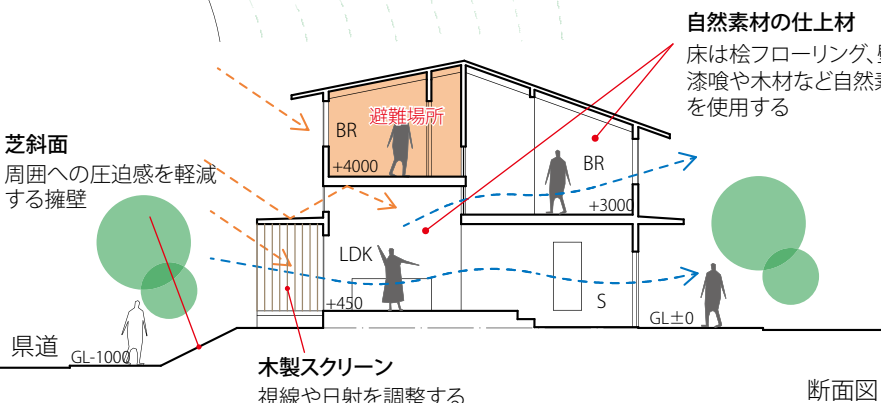
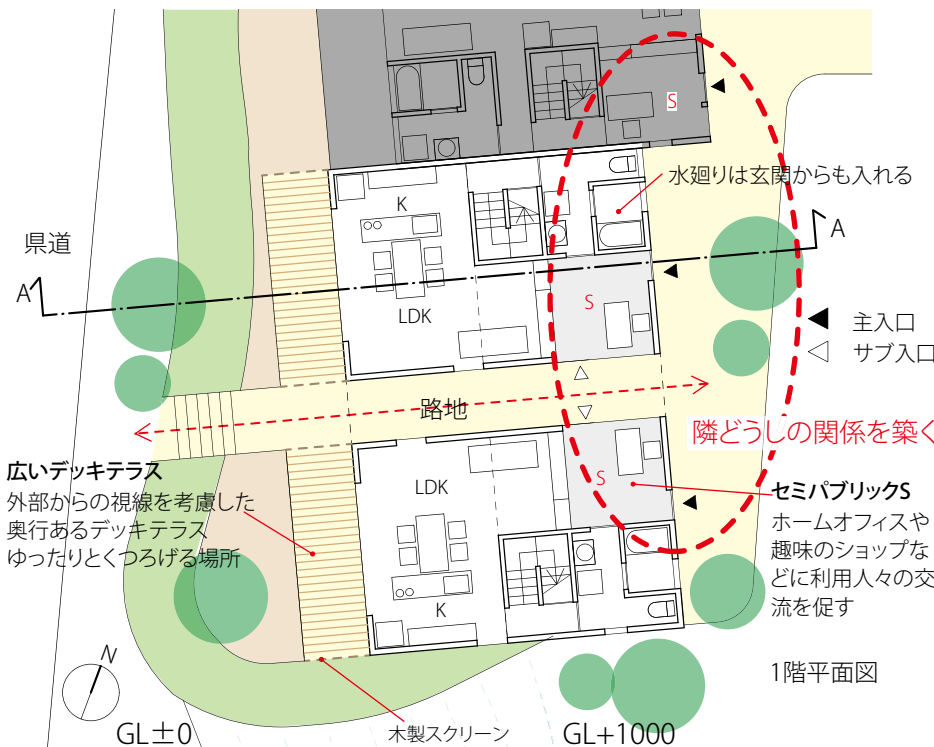
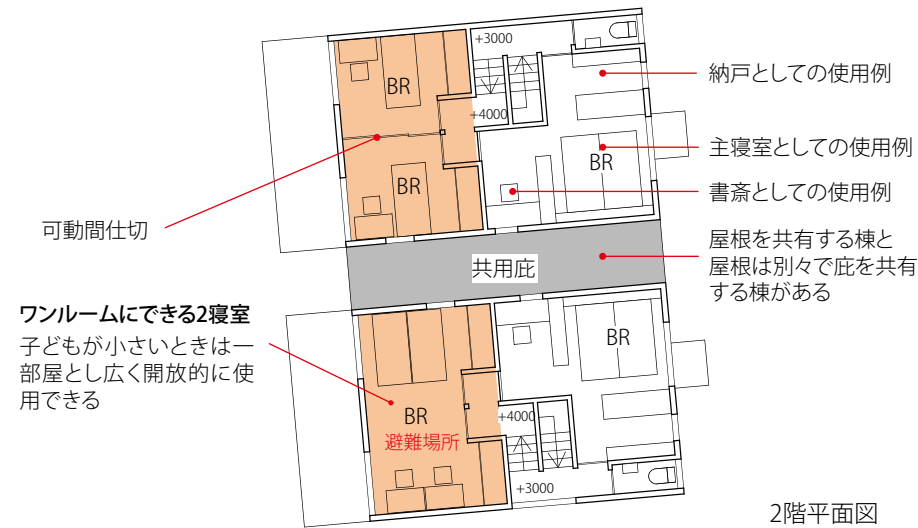
南西からの俯瞰。中心の交流広場を住戸がゆるやかに囲みながら川と山に開き、周辺環境に連続しながら交流と賑わいを作る。



# 湯浦地区地域優良賃貸住宅整備設計に係る公募型プロポーザル 住戸についての提案

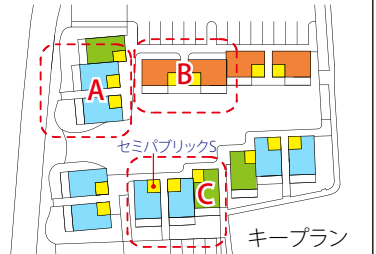
## タイプA住戸 (8戸) (建築面積47.5m<sup>2</sup>, 延床面積89.4m<sup>2</sup>)

- ・間口3間、奥行4.5間の平面で2階南側が避難場所です。
- ・2階南側は2寝室としていますが、中央の間仕切り戸を開放して広く使うこともできます。



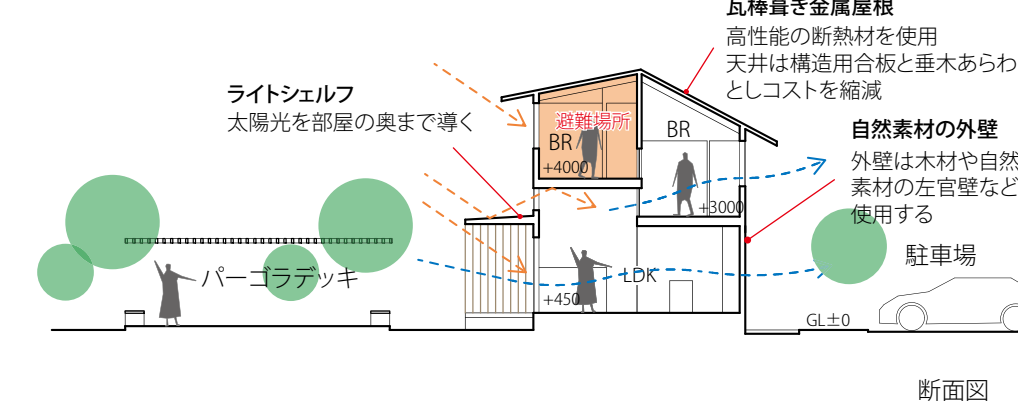
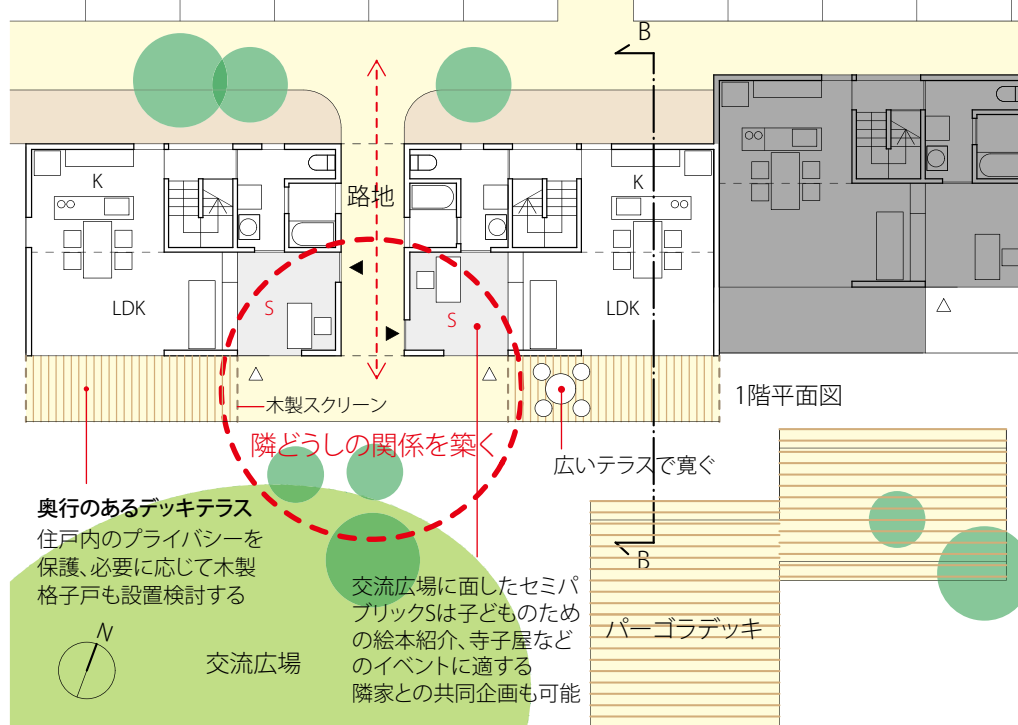
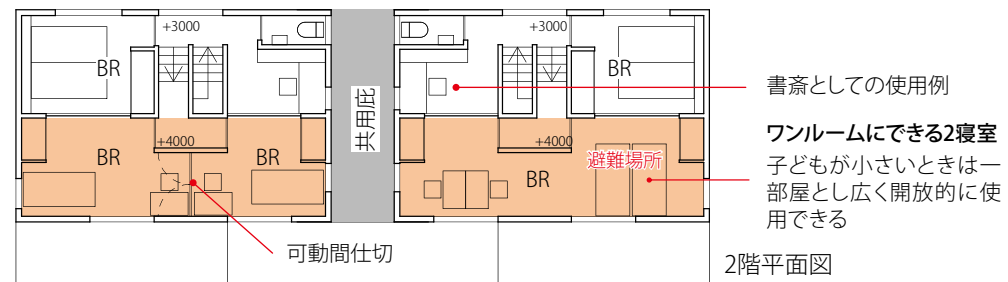
## 住戸の共通の特徴 ～一番安心する家の中での避難/日常も非常時にも有効な家の造り～

- ① 接地性を重視したテラスハウス形式**  
豊かなオープンスペースとの連続性が高く、子育て世帯や高齢者にも適しています。
- ② 避難場所は2.5階**  
住戸2階をスキップフロアとし、2.5階を地上5m高さの避難場所とすることで避難を容易にし、安全性を高めます。
- ③ セミパブリックスペースの提案**  
入口は広い土間空間。ここではホームオフィスや趣味のショップなど入居者がさまざまなに活用でき、創造的復興の足掛かりとなります。すべての住戸で交流広場側に設置しました。
- ④ 隣接2戸で屋根を共有する形式**  
隣接住戸は路地を挟んで屋根または庇を共有、隣どうしからコミュニティーを築きます。
- ⑤ コンパクトな平面**  
コスト削減を考慮して在来工法を採用、すべて同じ輪郭のコンパクトな構成としています。



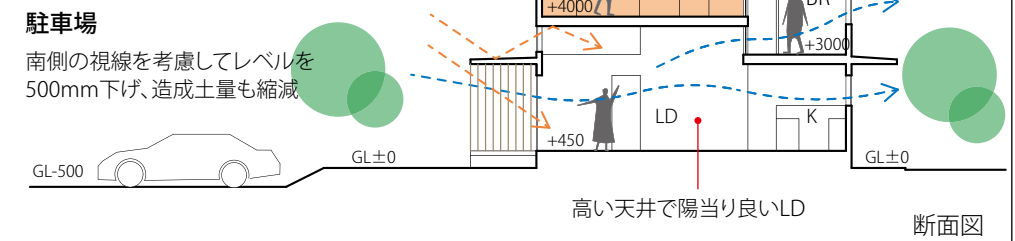
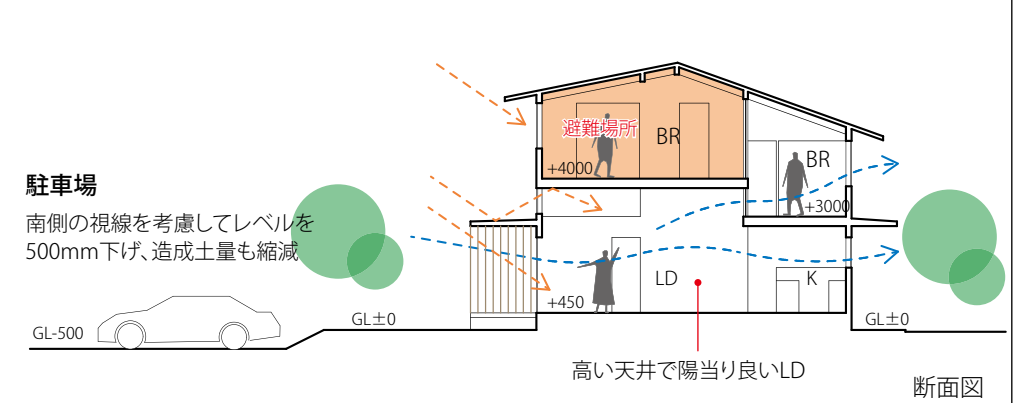
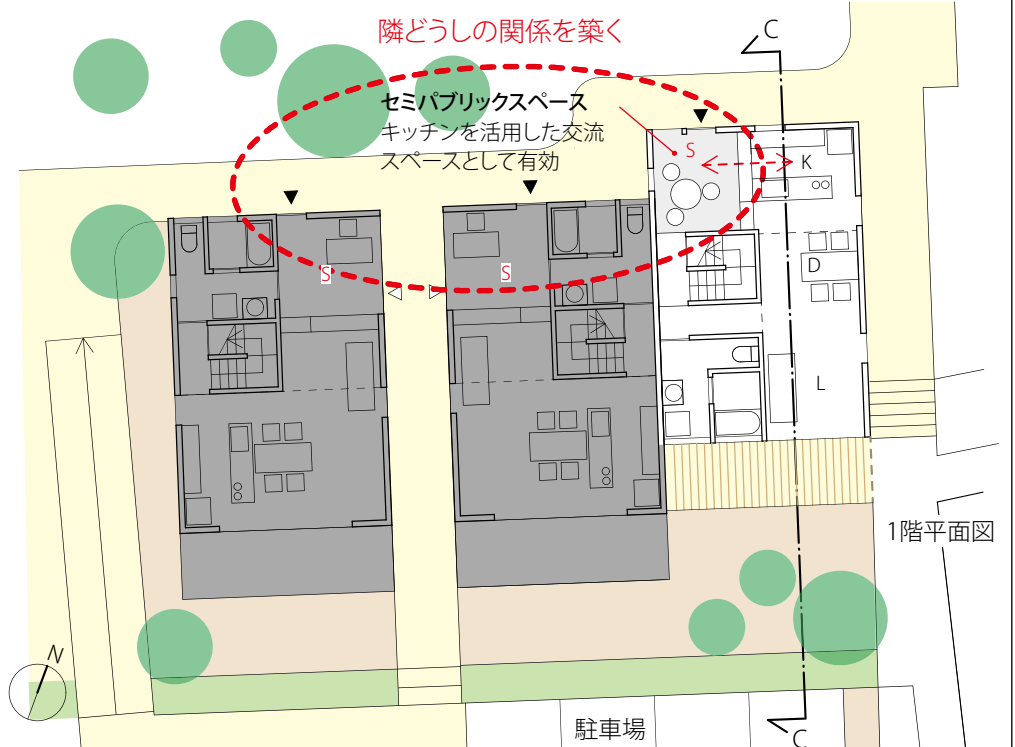
## タイプB住戸 (4戸) (建築面積47.5m<sup>2</sup>, 延床面積89.4m<sup>2</sup>)

- ・間口4.5間、奥行3間の南面ワイドフロンテージタイプです。
- ・入口は路地からとし、駐車場と広場両方からすぐに入れます。広場に広く面するので、セミパブリックスペースの土間を交流場所として使えます。



## タイプC住戸 (3戸) (建築面積47.5m<sup>2</sup>, 延床面積89.4m<sup>2</sup>)

- ・間口3間、奥行4.5間の平面で南側の一部屋が避難場所となります。
- ・タイプAと壁を共有することでまとまりを形成し、2戸1の住戸配置に変化を生み出します。
- ・キッチン、ダイニングとリビングが直列につながり、セミパブリックスペースの土間とキッチンが隣接します。
- ・天井が高く広い子ども部屋は2人以上で使うこともできます。



### 湯浦地区地域優良賃貸住宅整備設計に係る公募型プロポーザル

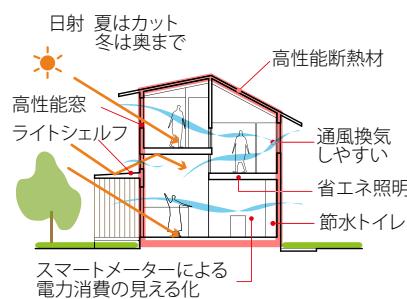


敷地東側からみる交流広場、共同菜園とパーゴラデッキは一体利用もできる。広場に面する住戸のプライベートテラスがコモンスペースとの中間領域となっている。

#### ■ 環境にやさしい

- ・自然光を夏冬の日射角を考慮して取り入れる工夫やライトシェルフの「パツ」手法により明るさと快適さを実現します。
- ・階段に加え床のレベル差を活用した換気窓が風と光を家全体に行き渡らせます。
- ・高断熱仕様の建築として環境負荷を抑え冷暖房を使用する期間・時間を短縮。窓の高断熱化を図り蓄熱塗壁も積極的に検討します。

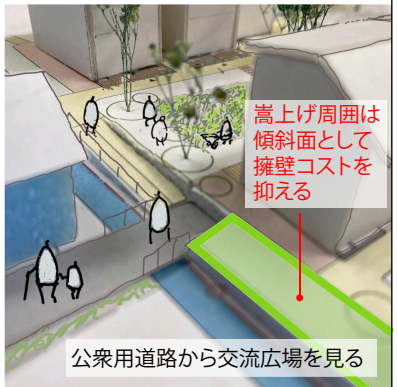
- ・リアルタイムで電力使用量を計測できるスマートメーター導入など、エネルギーの見える化を図ります。
- ・省エネ性能の高いLEDや設備機器を採用します。
- ・雨水を広場の散水や菜園の水やりに活用します。
- ・緑化や土系舗装、木質スクリーン等で輻射熱を低減し心地よい環境をつくります。



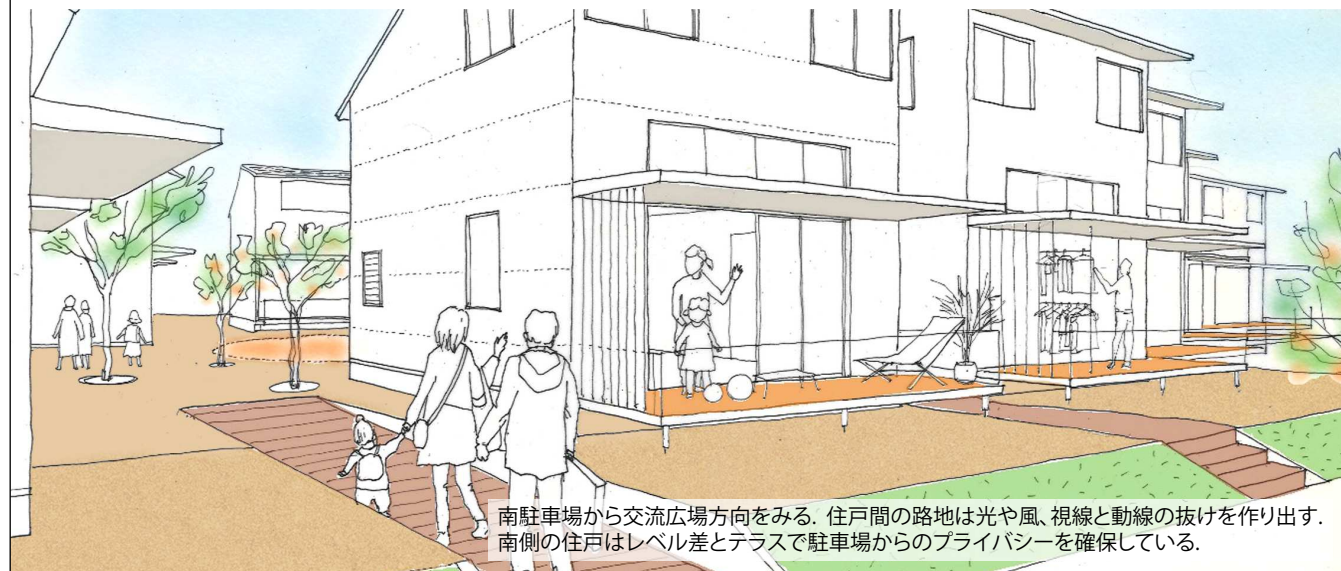
#### ■ コスト削減の考え方

- ・**造成コストの削減**: 嵩上げ周囲をなるべく傾斜面とすることで擁壁コストを抑えます。南側駐車場レベルは住戸からの視線を配慮しGL+500とし土量を抑えます。
- ・**屋根・界壁の共有**: 戸建て感覚が強い接地型住戸ですが、一部屋根や界壁を共有することで共同性を生み同時にコストも抑えます。
- ・**在来工法とコンパクトな形状**: 県産の流通材を使った在来工法を採用し、形状をシンプル

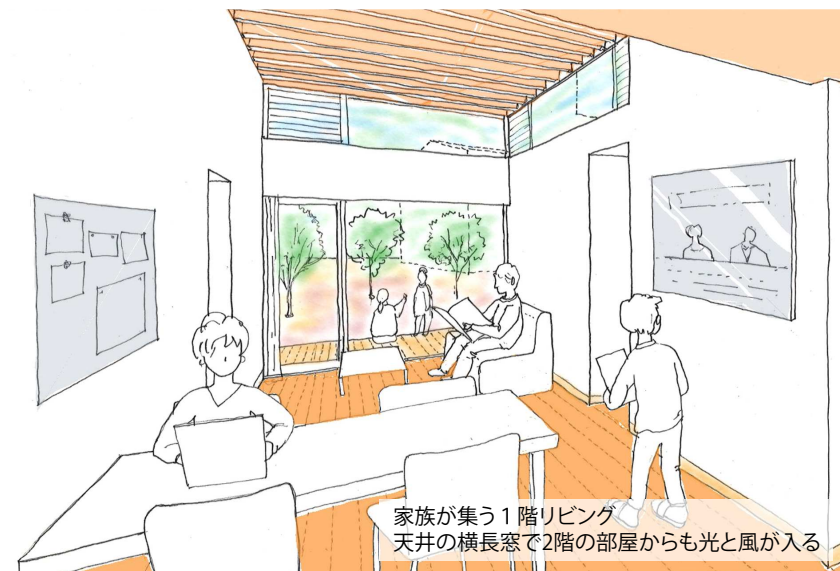
- かつコンパクトにします。また、3タイプの住戸は同じ平面輪郭とします。
- ・**寸法の標準化**: 階段室や水廻り、外部デッキテラスなどは3タイプ共通寸法として標準化します。アルミサッシや玄関扉なども性能に留意しながら標準品を使用します。
- ・**構造素材をあらわす**: 火気使用室や水廻り以外、天井は構造用合板と垂木(根太)あらわしとします。



公衆用道路から交流広場を見る



南駐車場から交流広場方向をみる。住戸間の路地は光や風、視線と動線の抜けを作り出す。南側の住戸はレベル差とテラスで駐車場からのプライバシーを確保している。



家族が集う1階リビング。天井の横長窓で2階の部屋からも光と風が入る



タイプC住戸2階。スキップフロアはレベルの違う部屋同士や下階と繋がりを生み家族の気配がわかりやすい